

C 「新教科」の実践から考える教科の学び

石川久美

1. 分科会テーマ

4つの「新教科」の授業実践を通して21世紀型の学びを考える

2. 発表者

渡辺武志、三小田博昭、石川久美

3. 研究協力者

野田真里先生（中部大学国際関係学部）

佐藤良子さん（共同授業者・異文化コミュニケーション専攻）

4. 協議内容

新教科は「心と身体の科学」「自然と科学」「国際コミュニケーション学」「平和と共生の科学」の4つの講座に分かれている。本校独自の教科である新教科の実践報告を行い、成果と課題を討議した。さらに、新教科で育てる学びの力を検討し、これからの教科の学びのあり方を考えた。

- ①新教科の成り立ちと4つの講座の紹介（石川）
- ②「自然と科学」の概要説明・成果と課題（渡辺）
- ③「共生と平和の科学」の概要説明・成果と課題
（三小田）
- ④「共生と平和の科学」の授業プランアドバイザーとして
（佐藤）
- ⑤ワークショップ・新教科のこれから
「21世紀社会の生きる力と確かな学力」
（野田）
- ⑥今後の方向性（石川）

5. 成果と課題

本校教員のみでの発表ではなく、授業を共に考えるところから協力していただいている野田先生や佐藤先生の話があったために、多角的な視点で考えることができた。

ワークショップでは、6人程のグループに分かれて話し合いを行った。「21世紀社会の生きる力と確かな学力」という大きなテーマにもかかわらず、参加者全員が意見を述べて、活発な話し合いとなった。本校教員も各グループに入ることで、他校教員との意見交流の場ともなった。

授業に関する質問が少なく、授業者から、各授業の検討会がしたかったという意見も出た。公開授業と分科会およびワークショップとの関連性を検討しなければならない。また、分科会の後に公開授業を行うと目的をもって授業を参観できるのではないかという意見もあったので検討したい。